

2016 年度事業報告

1. 会議、広報活動および会員数

(1) 会議の開催状況

(a) 評議員会

開催年月日	会議の内容
定時 6月22日	(1) 議長の互選について (2) 2015年度事業報告について (3) 2015年度計算書類（2015年度計算書類、附属書類〔計算書類関係〕）について
第一回臨時 3月26日	(1) 議長の互選について (2) 2017年度事業計画について (3) 2017年度計算書類（計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について

(b) 理事会

開催年月日	会議内容
第一回通常 6月12日	(1)2015年度事業報告（案）について (2)2015年度計算書類（案）（2015年度計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について (3)2016年度定時評議員会開催について (4)新入会員の承認 (5)理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第二回臨時 6月26日	(1) 新理事長・副理事長・常任理事の選定 (2) 委員会新主任・新副主任の選任
第三回通常 9月4日	(1)2016年度学会奨励賞受賞者決定について (2)2016年度研究大会会場・業務委託に関する契約について (3)科学研究費補助金「国際情報発信強化（B）」について (4)新入会員の承認 (5)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報

	告
--	---

第四回臨時 10月14日	(1)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2)2016年度施研究大会実施状況について報告
第五回臨時 12月18日	(1)2016年度研究大会実行委員会会計決算について (2)2016年度第一回臨時評議員会開催について (4)新入会員の承認 (5)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第六回通常 3月5日	(1)2017年度事業計画(案)について (2)2017年度計算書類(案)(計算書類、附属明細書〔計算書類関係])について (3)新入会員の承認 (4)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告

(c) 総会

10月14日、幕張メッセにおいて会員総会を開催した。

(1) 各種広報活動の状況

実施月	実施内容	対象者	発行形態
7月5日	Newsletter 148号刊行	会員	学会サイト 公開
10月6日	Newsletter 149号刊行	会員	
1月16日	Newsletter 150号刊行	会員	
4月10日	Newsletter 151号刊行	会員	

①Newsletterは学会ウェブサイトで公開している。

(<http://jair.or.jp/publication/nl.html>)

②Newsletterの目的は、評議員会・理事会・各種委員会・分科会・事務局の活動の現況と今後の方針について情報を発信するとともに、会員からの声を反映し、会員相互の情報交換を促進することにある。

③学会ウェブサイトを通じた情報発信も継続・拡充し、今期は刊行物の案内11件、理事会・委員会からの連絡31件、研究大会の関連情報26件、シンポジウム等の案内や公募情報52件、合計120件の発信をおこなった。

④会員に対する報提供のサービスとしてメーリングリストを活用した情報提供

を開始した。

(2) 会員数の状況

2016年度新入会員	73名
2016年度退会会員	89名

種別	人数
維持会員	0名
一般会員	1,567名
学生会員	302名
シニア A 会員	84名
シニア B 会員	39名
夫婦会員	30名
※夫 15名、妻 15名	

計 2,022 名

2017年3月31日現在

2. 事業の成果

(1) 継 1. 機関誌・書籍発行业業

1. 和文機関誌『国際政治』185号「変動期東南アジアの内政と外交」、186号「国際援助・国際協力の実践と課題」、187号「歴史認識と国際政治」、188号「国際政治研究の先端14」をそれぞれ刊行した。レフェリーによる厳正な審査を行うことによって、高い学術研究水準を確保すると同時に、188号は独立論文号として特に若手研究者がその研究成果を発表する機会を提供した。

2. 研究成果の公開を一段と進めるため、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム（J-STAGE）を活用して、すでに公開された『国際政治』のバックナンバーを今期は180号まで公開した。

3. 英文機関紙 International Relations of the Asia-Pacific (IRAP) については、Vol.16.No.2、同 No.3、Vol.17.No.1 の計3冊を発行した。投稿論文の掲載可否を判断するにあたっては、国際的なレフェリー陣による厳正な審査を行い、国際的学術交流の最前線として高い水準を維持した。

4. 本年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費（国際情報発信強化）」を利用して次の事業を行った。①英文ジャーナル編集委員会の海外委員と会議を行い、投稿の促進や編集体制などについて協議した。②2016年研究大会（千葉市）時における学会創設60周年記念部会に基づくIRAP特集号の刊行を準備した。

③研究大会（千葉市）において 60 周年記念部会を開催し、海外招聘者を含む研究者が報告し議論した。④IRAP の国際的な認知度を高めるために、オックスフォード大学出版局（OUP）に協力を依頼して、海外の研究者に対する IRAP の情報提供やウェブでのキャンペーンなどを行った。

5. IRAP のインパクト・ファクターが昨年夏に発表され、一昨年度の 0.758 からやや後退し 0.5 の評価であった。

(2) 継 2. 研究会・講演会事業

1. 10 月 14 日～10 月 16 日に幕張メッセにおいて、学会創設 60 周年記念研究大会を開催した。大会参加者は、参加者 750 人、懇親会 250 人強であった。セッション数は記念シンポジウム 1、通常部会 9、日韓合同部会 1、記念部会 6、回顧座談会、分科会 31 企画となった。部会 9「中国の「構造的権力」と周辺諸国・諸地域」を市民公開講座として一般に公開し、記念シンポジウムは「World Order in the 21st Century」と題して、報告、討論を行った。

2. 研究大会における部会、分科会プログラムは添付資料の通りである。

(3) 継 3. 国際学術交流事業

1. 海外における研究成果発表や研究交流を促すため、国際会議に参加する会員に対してその渡航費などの支援を行う国際学術交流助成制度を今年度も継続し、6 名の会員に助成を行った。

2. KAIS（韓国国際政治学会）との交流を行った。12 月 3 日～4 日には韓国（ソウル市）における KAIS の 60 周年記念大会研究大会に理事長、国際交流委員会副主任ら 3 名が参加し、日韓合同パネルが実施され、総会では理事長が日本国際政治学会を代表してお祝いのスピーチを行った充実した学術交流となった。また、研究大会（千葉市、10 月 15 日）では、日韓合同部会“American Rebalance Strategy after Obama: How Sustainable is It?”を開催し、KAIS から 2 名、日本国際政治学会から 3 名が報告者・討論者・司会者として参加した。

3. 研究大会（千葉市）では、日韓合同部会の開催について江草基金より研究大会助成を受けた。

4. International Studies Association (ISA)、WISC (World International Studies Committee) など海外諸学会の動向や学術情報を会員に伝えて会員の国際学術会議への参加を促し、諸地域・諸外国との学術交流のネットワーク構築に取り組んだ。

(4)他 1. 研究活動奨励事業

2016 年度の第 9 回学会奨励賞を、黒田友哉会員の「EC/アセアン関係の制度

化 一九六七—一九七五年」(182号)に授与した。本賞は2008年度に創設されたものであり、前年度の和文機関誌『国際政治』および英文機関誌 **International Relations of the Asia-Pacific** の執筆者のうち、40歳以下の若手執筆者を対象とした学会賞で、学会奨励賞選考委員会が選考を行う。受賞論文は国際的な政治学・国際政治学受賞論文を掲載する **World Political Science Review** に学会から推薦される。また、2015年度第7回学会奨励賞を受賞した佐藤会員による論文英訳に対して助成を行った。

2. 庶務の概要

(1) 役員等に関する事項

2016年度役員名簿（アイウエオ順）

理事長	石田 淳	東京大学教授
副理事長	佐々木 卓也	立教大学教授
理事	飯田 敬輔	東京大学教授
	石川 卓	防衛大学校教授
	遠藤 誠治	成蹊大学教授
	遠藤 貢	東京大学教授
	大島（岡本）美穂	津田塾大学教授
	大矢根 聡	同志社大学教授
	都丸 潤子	早稲田大学教授
	山田 敦	一橋大学教授
	森井 裕一	東京大学教授
	山田 哲也	南山大学教授
監事	太田 宏	早稲田大学教授
	首藤 もと子	筑波大学教授
評議員	赤木 完爾	慶應義塾大学教授
	大芝 亮	青山学院大学教授
	吉川 元	広島市立大学教授
	久保 文明	東京大学教授
	國分 良成	防衛大学校校長
	古城（久具）佳子	東京大学教授
	酒井 啓子	千葉大学教授
	添谷 芳秀	慶應義塾大学教授

	田所 昌幸 田中 明彦 中西 寛 李 鍾元	慶應義塾大学教授 東京大学教授 京都大学教授 早稲田大学教授
--	--------------------------------	-----------------------------------------

【一般財団法人 日本国際政治学会】

2016 年度事業報告・付属明細書

日本国際政治学会 2016 年度 創設 60 周年記念研究大会プログラム

10 月 14 日（金）

受付開始 12 : 00

14 日（金）午後の部会 13 : 00～15 : 30

部会 1 危機の EU

司会：上原良子（フェリス女学院大学）

報告：鈴木一人（北海道大学）

「ホーム＝グロウン・テロの台頭と EU の危機管理」

臼井陽一郎（新潟国際情報大学）

「規範パワー EU の行方：危機にある EU のグローバル戦略」

昔農英明（明治大学）

「ドイツにおける統合政策と難民問題」

討論：岩間陽子（政策研究大学院大学）

池本大輔（明治学院大学）

部会 2 多元的政軍関係

司会・討論：宮本悟（聖学院大学）

報告：佐野秀太郎（防衛大学校）

「21 世紀における軍事組織の在り方～民間軍事警備会社（PMSC）が提起する課題」

山尾大（九州大学）

「分断社会の多元的な政軍関係——戦後イラクを事例に」

吉岡明子（日本エネルギー経済研究所中東研究センター）

「未承認国家の「国軍」形成における課題：イラク・クルディスタンの事例から」

討論：池田明史（東洋英和女学院大学）

部会 3 戦後日本外交史研究の現在

司会：原口邦紘（外交資料館）

報告：村上友章（三重大学）

「高碓達之助と 1950 年代の日本外交」

白鳥潤一郎（北海道大学）

「『経済大国』の苦悩——東京サミット（1979 年）と日本外交」

高橋和宏（防衛大学校）

『自由化』の相克：1960年代前半の貿易自由化をめぐる政治・外交過程の再検証」

討論：波多野澄雄（アジア歴史資料センター）
井上正也（成蹊大学）

部会 4 日本の対外援助の多角的・理論的分析：開発・安全保障・民主化支援の観点から

司会・討論：大矢根聡（同志社大学）

報告：下村恭民（法政大学）

「日本の開発援助政策における「介入度」の変動」

市川麻衣子（関西外国語大学）

「ソフトパワーとしての日本の民主化支援—新古典的現実主義による分析—」

畠山京子（関西外国語大学）

「日本の南シナ海における軍事支援—構成主義と現実主義の視点から」

討論：宮下明総（東京国際大学）

部会 5 東アジアをめぐる外交と秩序（自由論題企画）

司会：阿南友亮（東北大学）

報告：Hyoung-kyu CHEY（政策研究大学院大学）

“A Demand-side Analysis of Currency Internationalisation: Who are the First Movers to the Renminbi?”

張雲（新潟大学）

「国際関係における戦略認知と外交政策の関連性に関する理論的・実証的研究—中国の対日外交を中心に」

高橋慶吉（大阪大学）

「中国大国化構想とは何だったのか—アメリカによる戦後アジア秩序構築の試み」

討論：林載桓（青山学院大学）

分科会セッション A（15：45～17：15）別掲

分科会セッション B（17：30～19：30）別掲

10月15日(土)

受付開始 9:00

15日午前の部会・記念部会(9:30~12:00)

部会6 戦間期日本外交史研究の可能性～国際政治史・国際関係論との対話を通じて～

司会・討論：石田憲(千葉大学)

報告：高光佳絵(千葉大学)

「国際的民間団体と日本外交：「太平洋問題調査会」の第2トラック的側面を中心に」
田嶋信雄(成城大学)

「戦間期日本の「西進」政策と日独防共協定—ユーラシア諜報・謀略協力の形成と挫折」

鹿錫俊(大東文化大学)

「日中戦争長期化の形成過程におけるソ連要因の虚実—中国要人の私文書に基づく再検討—」

討論：酒井哲哉(東京大学)

花田智之(防衛研究所)

部会7 インサージェンシーの地域比較

討論・司会：中西嘉宏(京都大学)

報告：山根健至(福岡女子大学)

「フィリピンにおけるカウンター・インサージェンシーと非国家主体の役割」
高岡豊(公益財団法人中東調査会)

「シリア紛争に伴う非国家主体の台頭：シリア北東部の事例から」
馬場香織(アジア経済研究所)

「近年のメキシコにみる麻薬紛争と自警団の台頭」

討論：本名純(立命館大学)

小泉悠(公益財団法人 未来工学研究所)

部会8 : American Rebalance Strategy after Obama: How Sustainable is It? 【日韓合同部会】

Chair: Atsushi Ishida (President, JAIR/University of Tokyo)

Speakers: Satoru Mori (Hosei University)

“American Rebalance Strategy and the US-Japan Alliance”

Taehyung Kim (Soongsil University)

“American Rebalance Strategy and the US-ROK Alliance”

Discussants: Koji Murata (Doshisha University)

Hanbeom Jeong (The Korea National Defense University)

≪別掲≫

Commemorative Panel A: The Future of Warfare: Is the Era of Expeditionary Warfare Over?

Commemorative Panel B: How Does Migration Become an Issue in International Relations? Institutionalization in Immigration Control and the Reappraisal of Liberal Democracy

Commemorative Panel C: The End of Globalization: Lessons from East Asian International Relations in the Interwar Period

分科会セッション C (13:30~15:00) 別掲

総会 15:00~15:30 レセプションホール

≪別掲≫

International Symposium: World Order in the 21st Century (15:30~18:30)

懇親会 (19:00~20:30)

10月16日(日)

受付開始 9:00

16日(日) 午前の部会 9:30~12:00

部会 8 帝国の解体と再生 (サイクス・ピコ協定 100 周年)

司会: 浅野豊美 (早稲田大学)

報告: 坂元一哉 (大阪大学)

「戦後日本と『帝国』再生の条件: 憲法、平和条約、安保条約」

廣瀬陽子 (慶應義塾大学)

「未承認国家の誕生と存続: 帝国・連邦の遺産」

赤川尚平 (慶應義塾大学)

「オスマン帝国の解体とイギリス外交」

討論: 岡本隆司 (京都府立大学)

佐藤尚平 (金沢大学)

部会 9 中国の「構造的権力」と周辺諸国・諸地域【市民講座を兼ねる】

司会・討論: 高木誠一郎 (日本国際問題研究所)

報告：松田康博（東京大学）

「中国の構造的権力下の台湾—繁栄と自立のディレンマを越えて—」

庄司智孝（防衛研究所）

「構造的権力化する中国と ASEAN の対応」

佐橋亮（神奈川大学）

「アメリカは中国の権力をどのように捉えているのか」

討論：泉川泰博（中央大学）

《別掲》

Commemorative Panel D: Imperial, Post-Imperial, or Pre-Imperial? Global Power Shifts in Historical Perspective

Commemorative Panel E: Asia after the American Age: Toward Multipolar International Relations

Commemorative Panel F: Transnational Governance and Public-Private Partnerships

日本国際政治学会 60 周年記念大会回顧座談会（13：00～15：00）

司会：大芝亮

冒頭発言：入江昭

パネルディスカッション：山本吉宣、毛里和子、五百旗頭真

分科会セッション D（13：15～14：45）別掲

分科会セッション E（15：00～16：30）別掲

**Program of the 60th Anniversary Meeting
The Japan Association of International Relations (JAIR)**

PART I: Saturday Morning Program

Time: 9:30-12:00 Saturday, October 15

Commemorative Panel A: The Future of Warfare: Is the Era of Expeditionary Warfare Over?

Speaker 1: Stephen Biddle (George Washington University)

“How Non-State Actors Fight: The Determinants of Non-State Military Methods”

Speaker 2: ONG Weichong (Nanyang Technological University)

“The Rise of Hybrid Threats: Manifestations and Impact in the Asia-Pacific Region”

Speaker 3: Kiichi Fujiwara (The University of Tokyo)

“On Navies and Modern Warfare: The Return of Maritime Strategies?”

Chair/Discussant: Yee Kuang Heng (The University of Tokyo)

Commemorative Panel B: How Does Migration Become an Issue in International Relations? Institutionalization in Immigration Control and the Reappraisal of Liberal Democracy

Speaker 1: Rieko Karatani (Kansai University)

“Construction and Transformation of Global Migration Governance: In Whose Interest is It?”

Speaker 2: James F. Hollifield (Southern Methodist University)

“Compromising ‘the Liberal Dilemma’? The Case of Europe and America”
(tentative)

Speaker 3: Brenda SA Yeoh (National University of Singapore)

“Norm-Taker or the Entrepreneur? The Case of Asia” (tentative)

Discussant: Atsushi Shibasaki (Komazawa University)

Chair: Midori Okabe (Sophia University)

Commemorative Panel C: The End of Globalization: Lessons from East Asian International Relations in the Interwar Period

Speaker 1: Daqing Yang (The George Washington University)

“Facing a New Information Age: Japan’s Search for a Foreign
Communication Policy in the Early 20th Century”

Speaker 2: Harumi Goto-Shibata (The University of Tokyo)

“Japan's Struggle with Internationalism Revisited: The League of Nations in
East Asia”

Speaker 3: Tosh Minohara (Kobe University)

“The Elusive Equality: Japan and the Issue of Race during the Interwar
Period”

Chair/Discussant: Haruo Tohmatsu (National Defense Academy)

PART II: Saturday Afternoon Program

Time: 15:30-18:30 Saturday, October 15

International Symposium: World Order in the 21st Century

Keynote speech: Akihiko Tanaka (The University of Tokyo)

“World Order: Are We Really on Our Way to the New Middle Ages?”

Panel discussion:

Chair: Yoshihide Soeya (Keio University)

Panelist 1: Barry Buzan (London School of Economics)

Panelist 2: Yan Xuetong (Tsinghua University)

Panelist 3: Saori N. Katada (University of Southern California)

Panelist 4: Choi Young Jong (Catholic University of Korea, President, KAIS)

PART III: Sunday Morning Program

Time: 9:30-12:00 Sunday, October 16

Commemorative Panel D: Imperial, Post-Imperial, or Pre-Imperial? Global Power Shifts in Historical Perspective

Speaker 1: Marlène Laruelle (George Washington University)

“Russia in Eurasia: Neo-Empire, Post-Imperial, Regional Hegemon?”

Speaker 2: Tsai Tung-Chieh (National Chung Hsing University, Taiwan)

“Paradigm Shift and Imperial Policy in the Post-American Era: A Possible

Case of China”

Speaker 3: Jun Furuya (Hokkai School of Commerce)

“U.S. Global Hegemony under the Obama Presidency: A Retreat from Empire?”

Chair: Tomohiko Uyama (Hokkaido University)

Discussant 1: Yoshinobu Yamamoto (University of Niigata Prefecture)

Discussant 2: Akihiro Iwashita (Hokkaido University/Kyushu University)

Commemorative Panel E: Asia after the American Age: Toward Multipolar International Relations

Speaker 1: Amitav Acharya (American University)

“Building a Global International Relations (Global IR) out of Asia: Pathways and Pitfalls”

Speaker 2: Zhu Feng (Nanjing University)

“China's Maritime Power Ambition and Restructuring of the Balancing System in East Asia”

Speaker 3: Takenori Horimoto (Open University of Japan)

“India’s Foreign Policy in the Asian Power Shift”

Chair: Mari Izuyama (National Institute for Defense Studies)

Discussant 1: Shin Kawashima (The University of Tokyo)

Discussant 2: Shinichi Takeuchi (Institute of Developing Economies-JETRO)

Commemorative Panel F: Transnational Governance and Public-Private Partnerships

Speaker 1: Duncan Snidal (Oxford University)

“Orchestration as a New Mode of International Organizations’ Governance”

Speaker 2: Graeme Auld (Carleton University)

“The Evolving Logics of Transnational Private Governance across Sectors”

Speaker 3: Isao Sakaguchi (Gukushuin University)

“The Prospects and Limits of Private Sustainability Regulation: Japan’s Experiences”

Chair/Discussant 1: Takahiro Yamada (Nagoya University)

Discussant 2: Norichika Kanie (Keio University)

日本国際政治学会 2016 度研究大会分科会プログラム

◆10月14日(金)

分科会セッション A (15:45~17:15)

- A-1 日本外交史 I** 責任者 熊本 史雄 (駒澤大学)
- テーマ 韓国併合の諸問題
- 司会 熊本 史雄 (駒澤大学)
- 報告 李 盛煥 (啓明大学校)
- 「日露戦争期の韓国新聞の分析：当時の韓国人に日露戦争はどのように受け取られたのか？」
- 稲葉 千晴 (名城大学)
- 「軍事史から見た日本による韓国占領 1904 年 2 月」
- 討論 平山 龍水 (東京国際大学)
- ヤロスラフ・シュラトフ (広島市立大学)
-
- A-2 東アジア国際政治史 / 東アジア I** 責任者 阿南 友亮 (東北大学) / 加茂 具樹 (慶應義塾大学)
- テーマ ポスト冷戦期の東アジア：武器輸出をめぐる国際政治
- 司会 浅野 亮 (同志社大学)
- 報告 伊藤 弘太郎 (中央大学)
- 「冷戦後の韓国の防衛産業：防衛装備品輸出拡大への過程」
- 田中 慎吾 (大阪大学)
- 「オバマ政権の対東アジア核外交：核燃料再処理技術問題を中心に」
- 土屋 貴裕 (慶應義塾大学)
- 「中国の軍備管理・不拡散政策と武器輸出」
- 山口 航 (同志社大学)
- 「武器輸出三原則の見直しと規範」
- 討論 浅野 亮 (同志社大学)
- 佐藤 丙午 (拓殖大学)
-
- A-3 欧州国際政治史・欧州研究 I** 責任者 広瀬 佳一 (防衛大学校)
- テーマ 欧州の核をめぐる諸問題
- 司会 広瀬 佳一 (防衛大学校)
- 報告 小川 健一 (防衛大学校)
- 「冷戦期の欧州戦術核—NATO 核計画部会における暫定指針の策定過程の解

明」

小島 真智子（名古屋商科大学）

「WMD 拡散問題をめぐる米仏間の政策一致への動向：仏国側のプラグマティズムかパラダイムシフトか」

討論 梅本 哲也（静岡県立大学）

新垣 拓（防衛研究所）

A-4 アフリカ 責任者 加茂 省三（名城大学）

テーマ アフリカにおける安全保障の諸相

司会 加茂 省三（名城大学）

報告 神宮司 覚（防衛研究所）

「アフリカにおける安全保障環境の変化と軍の適応——進展と課題——」

杉木 明子（神戸学院大学）

「アフリカにおける海賊行為の処罰と「地域訴追モデル」——ソマリア沖海賊問題の事例から——」

討論 落合 雄彦（龍谷大学）

A-5 理論と方法 I 責任者 鈴木 一敏（広島大学）

テーマ 実証手法の融合

司会 鈴木 一敏（広島大学）

報告 岩波 由香里（大阪市立大学）

“Aid Allocation and Burden-Sharing”

大石 晃史（東京大学）

「紛争主体の分裂統合に対するネットワーク分析：コンゴ内戦を例に」

伊藤 岳（富山大学／人間文化研究機構）

“How Do You Strike Me? Decomposing the Determinants of Selective and Indiscriminate Violence in Civil Conflicts”

討論 大森 佐和（国際基督教大学）

山本 和也（平和・安全保障研究所）

A-6 国連研究 責任者 望月 康恵（関西学院大学）

テーマ 国連の組織と機能の再検討—国連創設 70 周年を迎えて

司会 本多 美樹（早稲田大学）

報告 チュイ・デンブン（桐蔭横浜大学）

「国連改革論の新しいモデル」

水谷 元海（名古屋大学）

『『任意的経済制裁』の誕生と発展—経済制裁を勧告する安保理の権限について—』

討論 渡部 茂己 (常磐大学)
真嶋 麻子 (津田塾大学)

A-7 若手研究者・院生研究会 責任者 赤川 尚平 (慶應義塾大学)

テーマ 「国際関係における日本の議会政治—関係と比較の観点から」

司会 松寄 英也 (上智大学)

報告 伊東 かおり (九州大学)

「帝国議会とカーネギー国際平和財団—第一次世界大戦後の列国議会同盟日本議員団再組織を巡る通信員宮岡恒次郎の活動を中心に」

高島 亜紗子 (東京大学)

「歴史問題と政党政治 - 日独民主主義の比較」

討論 中村 登志哉 (名古屋大学)
三牧 聖子 (関西外国語大学)

分科会セッション B (17:30~19:30)

B-1 日本外交史Ⅱ (使用言語:英語) 責任者 熊本 史雄 (駒澤大学)

テーマ Aborted Liberal International Vision in Japan before 1945

司会 猪口 孝 (新潟県立大学)

報告 猪口 孝 (新潟県立大学)

“Shigeru Nambara (1889-1974): How a Japanese Liberal Conceptualized Eternal Peace in 1918-1951”

John Ikenberry (Princeton University)

“The Wages of Modernity: The Origins of Liberal Internationalism and the Wilsonian Moment”

原田 泰 (日本銀行)

“Formation and Collapse of a Vision for the Liberal International Order during the Interwar Period in Japan”

中野 涼子 (金沢大学)

“Yanaihara Tadao’s Liberal Internationalism and Colonial Economic Development”

討論 木畑 洋一 (成城大学)

- B-2 東アジア II (使用言語: 英語)** 責任者 加茂 具樹 (慶應義塾大学)
- テーマ Assessing Military Reform in China - Drivers, Processes, and Implications
- 司会 林 載桓 (青山学院大学)
- 報告 林 載桓 (青山学院大学)
- “A Political Logic of Military Reform: The Case of China”
Joel Wuthnow (National Defense University)
- “Looking Inside PLA Organizational Reforms”
山口 信治 (防衛省防衛研究所)
- “Evolution of the military reform of China”
飯田 将史 (防衛省防衛研究所)
- 討論
- B-3 中東** 責任者 辻上 奈美江 (東京大学)
- テーマ 中東地域の新しい安全保障パラダイム
- 司会 辻上 奈美江 (東京大学)
- 報告 中西 久枝 (同志社大学)
- 「イラン核合意と中東域内政治-核問題の脱安全保障化を中心に」
佐藤 麻理絵 (日本学術振興会)
- 「二層化するヨルダンの難民受け入れ: 国際難民レジームへの挑戦」
土佐 弘之 (神戸大学)
- 「R2P のメルトダウン: 国連安保理決議 1973 以後」
末近 浩太 (立命館大学)
- 討論
- B-4 理論と方法 II** 責任者 鈴木 一敏 (広島大学)
- テーマ 国際政治のモデル化と理論化
- 司会 石黒 馨 (神戸大学)
- 報告 政所 大輔 (神戸大学)、赤星 聖 (日本学術振興会)
- 「コンストラクティビズム研究の先端-原点回帰と政治性の回復」
堀内 めぐみ
- 「国際関係理論における西田幾多郎の位置づけ-文化の観点から」
田沼 彬文 (東京大学)
- 「武力行使の威嚇と国際合意—湾岸戦争・イラク戦争を事例に」
土井 翔平 (京都大学)
- 「商業的平和論と内生的な相互依存」
湯川 拓 (大阪大学)
- 討論 小浜 祥子 (北海道大学)

- B-5 安全保障 I** 責任者 鶴岡 路人 (防衛研究所)
- テーマ 紛争解決研究と安全保障研究の相克
- 司会 杉田 米行 (大阪大学)
- 報告 酒井 英一 (関西外国語大学)
- 「ニーズとパワー——平和と安全保障の概念上の比較研究」
- 長谷川 晋 (関西外国語大学)
- 「非国家主体研究から見た紛争解決研究と安全保障研究の接点」
- 香川 めぐみ (大阪大学)
- 「対テロ戦争と内戦の力学——国際関係論と紛争解決論の相克」
- 討論 上杉 勇司 (早稲田大学)
- 古澤 嘉朗 (広島市立大学)
-
- B-6 国際政治経済** 責任者 和田 洋典 (青山学院大学)
- テーマ 経済政策過程の比較地域分析
- 司会 和田 洋典 (青山学院大学)
- 報告 河越 真帆 (神田外語大学)
- 「地域統合と航空自由化——EU と ASEAN の事例」
- 鈴木 弘隆
- 「日米英の経験に学ぶ ECB の量的緩和(QE)と EU 域内格差」
- 徐 博晨 (東京大学)
- 「国際開発規範を巡る対立と収束——貧困削減戦略文書を例に」
- 富田 晃正 (明治学院大学)、藤田 将史 (東京大学)
- 「議員の投票行動を規定するのは物質的利益か？非物質的利益か？——ティーパーティー議員の通商選好を巡る一考察」
- 討論 鈴木 一人 (北海道大学)
- 岡本 次郎 (下関市立大学)
-
- B-7 国際交流／欧州国際政治史・欧州研究 II (使用言語：英語)** 責任者 飯森 明子 (常磐大学) / 広瀬 佳一 (防衛大学校)
- テーマ Refugees and Immigrants: Memory Inheritance in 20th Century
Euro-Japanese Relations
- 司会 飯森 明子 (常磐大学)
- 報告 A. Simonas Strelcovas (Siauliai University)
- “The Phenomena of Past and Memory: Chiune Sugihara’s Activities in Lithuania 1939-40”
- Shiraishi Masaaki (Diplomatic Archives)

“Current Trends and Issues in the Studies on Chiune Sugihara: At the Beginning of the Third Stage”

Kawakita Atsuko (Chuo University)

“Transformation of Historical Memory in Changing International Situations: Population Transfer in 20th Century Europe and Its Narratives”

討論 伊東 孝之 (早稲田大学)

高尾 千津子 (東京医科歯科大学)

B-8 平和研究 I 責任者 佐藤 史郎 (大阪国際大学)

テーマ 平和の逆説—「保護する責任」論と「普通の国家」論の再検討

司会 佐藤 史郎 (大阪国際大学)

報告 志村 真弓 (東京大学)

『「保護する責任」基準論における介入手段論争—2011年以降のシリア・中東情勢を中心に』

曹 三相 (中央大学)

「普通の国への道:日本とドイツ」

討論 高橋 良輔 (青山学院大学)

小松 志朗 (山梨大学)

◆10月15日(土)

分科会セッションC (13:30~15:00)

C-1 欧州国際政治史・欧州 III 責任者 広瀬 佳一 (防衛大学校)

テーマ 欧州諸国の安全保障文化の論点と比較研究

司会 渡邊 啓貴 (東京外国語大学)

報告 福田 耕治 (早稲田大学)

「EU安全保障・防衛協力のガバナンスと戦略文化研究」

森井 裕一 (東京大学)

「現代ドイツの安全保障文化—連邦軍と社会の関わりを中心として」

渡邊 啓貴 (東京外国語大学)

「安全保障・戦略文化研究動向とフランス」

討論 佐々木 卓也 (立教大学)

坂井 一成 (神戸大学)

C-2 ロシア・東欧 責任者 小森 宏美 (早稲田大学)

- テーマ 関係性の中の地域
 司会 柑本 英雄 (実践女子大学)
 報告 齋藤 竜太 (筑波大学)
 「旧ソ連中央アジアに対する援助活動と規範—水利用者組合の事例から—」
 大西 富士夫 (日本大学)
 「北極協調体制の成立と展開」
 久保 慶一 (早稲田大学)
 「セルビアにおける分裂とねじれ—戦争責任問題をめぐる政治の動態」
 討論 東野 篤子 (筑波大学)
 柑本 英雄 (実践女子大学)
- C-3 東南アジア** 責任者 板谷 大世 (広島市立大学)
- テーマ 自由論題
 司会 田村 慶子 (北九州市立大学)
 報告 木村 友彦
 「東ティモール軍事併合問題とオーストラリア外交：インドネシアとの関係と
 民族自決原則の間のフレーザー政権の葛藤」
 鈴木 陽一 (下関市立大学)
 「シンガポール共和国の建国について—人民行動党政府とイギリス帝国、
 1963-1966年—」
 討論 松野 明久 (大阪大学)
 板谷 大世 (広島市立大学)
- C-4 ラテンアメリカ** 責任者 岡部 恭宜 (東北大学)
- テーマ キューバ問題—日本、米国、スペインとの関係
 司会 岡部 恭宜 (東北大学)
 報告 細田 晴子 (日本大学)
 「冷戦期のスペイン・キューバ関係」
 ロメロ・イサミ (帯広畜産大学)
 「1950年代の日本の対ラテンアメリカ政策におけるキューバの重要性」
 上 英明 (神奈川大学)
 「暴力をめぐる政治—米・キューバ関係とカリブ海のテロリズムについて」
 討論 西田 竜也 (広島市立大学)
- C-5 安全保障 II** 責任者 鶴岡 路人 (防衛研究所)
- テーマ 同盟の形成と崩壊

司会 鶴岡 路人 (防衛研究所)
 報告 佐竹 知彦 (防衛研究所)
 「日豪安全保障協力の起源—冷戦後の国際秩序認識の共有」
 玉水 玲央 (早稲田大学)
 「盟邦による同盟の規約違反をめぐる新モデルの分析—『ANZUS 危機』(1985年)を事例に」
 討論 石川 卓 (防衛大学校)
 鶴岡 路人 (防衛研究所)

C-6 政策研究 責任者 吉崎 知典 (防衛研究所)
 テーマ 政府開発援助 (ODA) 決定における規範と実践
 司会 吉崎 知典 (防衛研究所)
 報告 金 孝淑 (関西外国語大学)
 「拒否権プレイヤーと貧困削減のための国際協力—なぜ規範の実施はドナー国によって異なるのか」
 竹澤 理絵 (一橋大学)
 「日本の開発援助政策における技術協力—政策決定要因の考察」
 討論 稲田 十一 (専修大学)
 道下 徳成 (政策研究大学院大学)

C-7 トランスナショナル 責任者 明石 純一 (筑波大学)
 (使用言語:英語)
 テーマ Universality of Non-Inclusive Migration Policy?: From the Perspective of “Neo-Plural Society”
 司会 Horinuki Koji (The Institute of Energy Economics, Japan)
 報告 Matsuo Masaki (Utsunomiya University)
 “Ethnocracy in the Arab Gulf States: Non-inclusive Migration Policy in Rentier States”
 Asato Wako (Kyoto University)
 “Neo-Plural Society from the Perspectives of Intersection between Migration and Welfare Regime: Cases from Gulf Countries”
 討論 Ishii Yuka (University of Shizuoka)

C-8 ジェンダー 責任者 森田 豊子 (鹿児島大学)
 テーマ イスラームとジェンダー
 司会 森田 豊子 (鹿児島大学)

- 報告 大形 里美 (九州国際大学)
「インドネシアにおけるイスラムとジェンダー—可視化されるイスラム思想の地域格差と多様性」(仮題)
細谷 幸子 (東京外国語大学)
「イランにおける人工妊娠中絶をめぐる倫理的議論」(仮題)
- 討論 中西 久枝 (同志社大学)

- C-9 環境** 責任者 毛利 勝彦 (国際基督教大学)
- テーマ 多国間環境協定をめぐる国際交渉と制度化
- 司会 毛利 勝彦 (国際基督教大学)
- 報告 舩方 周一郎 (神田外語大学)
「気候変動パリ協定とラテンアメリカ諸国の多国間交渉」
古賀 真希 (東京工業大学)
「気候変動ガバナンスにおける「断片化」に関する一考察—2013年以降の国際枠組みをめぐる交渉を事例として」
宇治 梓紗 (京都大学)
「水銀に関する水俣条約における三位一体の実現」
- 討論 沖村 理史 (島根県立大学)
大久保 彩子 (東海大学)
宮崎 麻美 (熊本学園大学)

◆10月16日(日)

分科会セッションD (13:15~14:45)

- D-1 欧州国際政治史・欧州研究IV** 責任者 広瀬 佳一 (防衛大学校)
- テーマ 欧州におけるマイノリティ保護をめぐる
- 司会 広瀬 佳一 (防衛大学校)
- 報告 山川 卓 (立命館大学)
「現代クロアチアのマイノリティ保護をめぐる：ネイション化=ヨーロッパ化試論」
玉井 雅隆 (立命館大学)
「『保護されない』マイノリティと OSCE、欧州審議会—ロマ保護枠組とその限界」
- 討論 小久保 康之 (東洋英和女学院大学)
林 忠行 (京都女子大学)

- D-2 アメリカ政治外交Ⅰ** 責任者 倉科 一希 (広島市立大学)
- テーマ ラウンド・テーブル「グローバル化と冷戦—1960年代後半から70年代初頭にかけての西側の経済・安全保障ダイナミズム」
- パネリスト
 アメリカ 水本 義彦 (獨協大学)、森 聡 (法政大学)
 ヨーロッパ 青野 利彦 (一橋大学)
 中東 小野沢 透 (京都大学)
 西ドイツ 妹尾 哲志 (専修大学)
 日本 中島 琢磨 (龍谷大学)
- モデレーター 森 聡 (法政大学)
- D-3 国際統合** (使用言語:英語) 責任者 中村 英俊 (早稲田大学)
- テーマ European Integration at a Crossroads
- 司会 Hidetoshi Nakamura (Waseda University)
- 報告 Richard G. Whitman (Chatham House and University of Kent)
 ‘Brexit: the End of Normative Power Europe?’
 Paul Bacon (Waseda University)
 ‘The Dangers of EU’s Self-Identification as a Normative Power’
 Shunsuke Sato (Université libre de Bruxelles)
 ‘The European Union in the Refugee Crisis : Reconfiguring its Borders’
- 討論 Atsuko Higashino (University of Tsukuba)
- D-4 安全保障Ⅲ** 責任者 鶴岡 路人 (防衛研究所)
- テーマ NSC、国家安全保障戦略と日本の安全保障—歴史と国際比較
- 司会 鶴岡 路人 (防衛研究所)
- 報告 千々和 泰明 (防衛研究所)
 「国家安全保障会議 (NSC) と国家安全保障局 (NSS) —日本における内閣安全保障機構の過去と現在」
 三宅 浩介 (偕行社)
 「日、英、豪の国家安全保障戦略の比較研究」
- 討論 松田 康博 (東京大学)
 細谷 雄一 (慶應義塾大学)

分科会セッションE (15:00~16:30)

- E-1 日本外交史Ⅲ** 責任者 熊本 史雄 (駒澤大学)
- テーマ 国際環境の変動と日本外交—戦前と戦後—
- 司会 熊本 史雄 (駒澤大学)
- 報告 佐々木 雄一 (東京大学)
「近代日本外交の論理転換—日英同盟交渉過程を中心に—」
塚本 英樹 (法政大学)
「日本外交における勢力圏の主張—日露戦争後の中国大陸進出の論理—」
山本 章子 (沖縄国際大学)
「デタント崩壊と大平外交—インドシナ政策を中心に—」
- 討論 片山 慶隆 (関西外国語大学)
-
- E-2 アメリカ政治外交Ⅱ** 責任者 倉科 一希 (広島市立大学)
- テーマ 自由論題
- 司会 西山隆行 (成蹊大学)
- 報告 松本 明日香 (日本国際問題研究所)
「米大統領予備選挙党内討論会の歴史的変遷と現在—2016年外交争点を中心に—」
溝口 聡 (立教大学)
「戦後文化政策と東アジア冷戦—1950年代アメリカ占領期の沖縄冷戦教育」
松本 佐保 (名古屋市立大学)
「大統領選挙と宗教票—歴史的考察を踏まえて」
- 討論 西山 隆行 (成蹊大学)
川上 耕平 (西南女学院大学)
-
- E-3 平和研究Ⅱ** 責任者 佐藤 史郎 (大阪国際大学)
- テーマ 紛争解決・平和構築をめぐる多層的セキュリティ・ガバナンスの探求
- 司会 足立 研幾 (立命館大学)
- 報告 片柳 真理 (広島大学)
「紛争地におけるローカル・セキュリティ・ガバナンスの形成」
中内 政貴 (大阪大学)
「旧ユーゴスラヴィア諸国におけるセキュリティ・ガバナンス—国際アクターと現地アクターとの同床異夢」
山根 達郎 (広島大学)

「アフリカにおける国連・EU・AU間セキュリティ・ガバナンスの統合と交錯」
討論 足立 研幾（立命館大学）

2. 和文学機関誌『国際政治』185号～188号掲載論文

『国際政治』185号
永井 史男「序論 変動期東南アジアの内政と外交」
山田 満「東南アジア・同境界地域の紛争解決と平和構築—深南部タイとミンダナオの二つの紛争を事例にして—」
田村 慶子「シンガポール二〇一五年総選挙と権威主義体制の行方」
高橋 正樹「一九九七年憲法とタクシンによる政治の国民化—タイ政治の分岐点をめぐって—」
鈴木 絢女「アジア通貨危機後のマレーシア—彷徨する国家と財政赤字—」
増原 綾子「民主化期インドネシアにおける脅威認識の変容と政軍関係」
井上 浩子「リベラル平和構築とローカルな法秩序—東ティモールにおける司法制度の構築をめぐって—」
武田 悠「米国の対外原子力政策における同盟国の役割—包括的事前同意制度の成立、一九七七—一九八二—」
蓮生 郁代「国連安保理改革とアカウントビリティの概念の歴史的変容—プラグマティックな多元的統制メカニズムの構築へ—」
書評論文：出岡 直也「政党システム瓦解の理論に向けて」
書評：小川 浩之、首藤 もと子

『国際政治』186号
高柳 彰夫「SDGs時代の開発援助・国際協力の実践と課題」
真嶋 麻子「途上国開発における現地化の機能—体制移行期のアルゼンチンへのUNDPの対応から—」
林 明仁「自己規制イニシアティブとNGOの存在意義」
西川由紀子「紛争を経験した脆弱国をめぐる開発協力—批判的検証と今後の展望—」
片柳 真理「人権に基づく転換的平和構築」
小林 綾子「アフリカの内戦における人道アクセス問題と反乱軍—南スーダンを事例として—」
本多 倫彬「JICAの平和構築支援の史的展開（一九九九—二〇一五）—日本流平和構築アプローチの形成—」
宇田川光弘「日本の援助理念としての自助努力支援の国際政治論的考察—人間の安

全保障との関係性を視野に—
保城 広至「日米関係と政府開発援助」
天野 健作「インドの国際河川における紛争防止メカニズムの比較考察」
書評論文：福田 潤一「米国の対外関与のあり方を巡る論争」
書評：池内恵、福田保

『国際政治』187号
等松 春夫「歴史認識と国際政治」
上 英明「一八九八年戦争の記憶」
向山 直佑「第三国による歴史認識問題下の介入の要因と帰結」
深串 徹「中華民国の公定歴史認識と政治外交—一九五〇—一九七五年」
鹿 錫俊「抗日戦争史をめぐる中国の歴史認識問題」
松浦 正伸「『疑似環境』と政治」
福島 啓之「日比賠償問題の歴史認識」
高島亜紗子「謝罪の形成」
政所 大輔「『保護する責任』規範の伝播」
書評論文：前田幸男「坂本義和—一人々の『いのち』に向き合い続けた国際政治学者
五野井郁夫「政治的リアリストとしての丸山眞男」
書評：永田伸吾、上村威

『国際政治』188号
長 史隆「冷戦の変容と日米関係—一九七三—一九七五年」
高橋力也「一九三〇年ハーグ国際法典編纂会議における『妻の国籍』問題と日本」
玉置敦彦「ベトナム戦争をめぐる米比関係」
山口 航「総合安全保障の受容」
米 多「中華民国の「アジア反共同盟」構想」
板山真弓「日米防衛協力のための指針」策定以前における日米防衛協力の実態」
真田尚剛「『防衛計画の大綱』における基盤的防衛力構想の採用一九七四—一九七六年」
書評論文：五十嵐元道「国際関係史の過去と現在」
内記香子「増加する『指標』とグローバルガバナンス」
今井真士「『アラブの春』の比較政治学」
書評：佐藤洋一郎、楠綾子

3. 英文機関紙 International Relations of Asia-Pacific
Vol.16.No.2, Vol.16.No3, Vol.17.No1 掲載論文

International Relations of the Asia-Pacific, Vol.16.No.2

Kazuto Ohtsuki, "Buying the best favor: foreign aid for cooperation or convenience"

David Martin Jones and Nicole Jenne, "Weak states' regionalism: ASEAN and the limits of security cooperation in Pacific Asia"

Xiaoting Li, "Applying offensive realism to the rise of China: structural incentives and Chinese diplomacy toward the neighboring states"

Seung Hyok Lee, "North Korea in South Korea–Japan relations as a source of mutual security anxiety among democratic societies"

Erika Tominaga, "The failure in the search for peace: America's 1968 sale of F-4 Phantoms to Israel and its policy towards Israel and Jordan"

Book Reviews

International Relations of the Asia-Pacific, Vol.16.No.3

Jun Yan Chang, "Essence of security communities: explaining ASEAN"

Surinder Mohan, "Ideology, territorial saliency, and geographic contiguity: the beginning of India–Pakistan rivalry"

Courtney J. Fung, "What explains China's deployment to UN peacekeeping operations?"

Lau Blaxekjær, "Korea as green middle power: green growth strategic action in the field of global environmental governance"

Thomas S. Wilkins, "The Japan choice: reconsidering the risks and opportunities of the 'Special Relationship' for Australia"

Book Reviews

International Relations of the Asia-Pacific, Vol.17.No.1

Victor Cha, "Informal hierarchy in Asia: the origins of the U.S.–Japan alliance"

Jason Ralph, "The Responsibility to Protect and the rise of China: lessons from Australia's role as a 'pragmatic' norm entrepreneur"

Charles Miller and Helen Taylor, "Can economic interests trump ethnic hostility? Trading ties versus outgroup hostility in Australian perceptions of China as a security threat"

Nichola D. Anderson, "Anarchic threats and hegemonic assurances: Japan's security production in the postwar era"

Sun Chul Jung, "J Nuclear aggressors, nuclearizing targets: nuclear weapon development and preventive conflict"

Book Reviews